ボランティア活動で人の輪

色々な人との出会いが魅力

モクモクと大きくなる入道雲。綿菓子みたいな真っ白な入道雲のお陰で真っ青な空を見ることが出来るそうだ。入道雲が色々な創りながら移動していく。子どもの頃の楽しかった夏を懐かしく思う。

今回は、多くのボランティアに参加し、子どもからお年寄りまで幅広く頼りにされている玉里地区にお住まいの斎藤翔さんを取材する。

「みの～れは、色々な人と知り合いになれるので、人の輪を広げてくれる。」と語る斎藤さん

みの～れデベロップ・スクール実行委員

斎藤 翔さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life のすすめ No.39

斎藤さんは大学二年生。充実した学生生活を送りながら積極的にボランティアに参加している。先日も社会福祉協議会（社協）のボランティアに参加し子どもたちと楽しいひとときを過ごした。斎藤さんが小学校5、6年生のときに実際に参加したイベントだ。現在はレクリエーションの資格を取っており、次はキャンプのインストラクターの資格を取りたいと思っている。

8年前から玉里太鼓に入り、活躍している。小美玉和太鼓フェスティバル、老人ホームの納涼祭や子ども会等のイベントに参加し、子どもたちやお年寄りがとても喜んでくれ、「来てよかった」と思うと斎藤さんは話す。

みの～れに関わるようになったきっかけは知人の紹介で足を運ぶようになった。さくらフェスティバルの実行委員、みの～れデベロップ・スクールの一員になっている。みの～れデベロップ・スクールは文化ボランティアリーダーを育成・支援を目的に開催しており、去年は意外と知らない小美玉市をみんなで協力しながら発見するという楽しい企画を行なった。次回は10月24日に行なう予定で現在計画を立てている。

「デベロップ・スクールに参加した人たちがみの～れの実行委員に入ってくれたらいいと思う」と斎藤さんは話す。

また、re:mito（茨城大学、常磐大学、茨城キリスト大学に通う大学生でつくられているサークル）にも所属しており、8月末には千波湖の畔でイベントを行う計画を立てている。

斎藤さんにとってみの～れは、「色々な人と知り合いになれるので、人の輪を広げてくれる。」と話してくれた。

斎藤さんは大学で社会教育主事の資格を取るために勉強中だ。優しそうな人柄が子どもからお年寄りまで好かれる理由だと思う。

（藤田佐知子）